

# なみえ のいま

第8号  
令和4年3月

## 地域と人、人と人をつなぐ

「浪江町の歴史を学びたい」  
そんな町民の声から始まった浪江町歴史勉強会。  
参加者は現地を視察し、交流しながら大平山霊園  
から見える地形から浪江町の学びを深めました。



# 令和3年度下半期はこんな活動をしました

活動の中からいくつか紹介します

## 学びから地域のつながりを育む

権現堂区長会では、権現堂2区行政区の末永福男区長を講師に、浪江町の歴史や文化を学ぶ勉強会を昨年11月より開催しています。今年度全5回を予定している歴史勉強会は、全て講義と現地視察（表紙写真参照）を交えた内容となっています。11月は「地形と生い立ち」、12月は「原始古代からの歴史」をテーマに開催。いずれも、30代から70代までの幅広い年代の方が参加されていました。浪江町の歴史について知見を深めながら、浪江町の学びをきっかけに、参加者同士の交流が生まれてきています。参加された方からは「こぼれ話が面白い」「現地視察があるから学びが深まる」といった感想があり、今後の勉強会を期待する声なども聞かれました。



▲熱心に耳を傾けている参加者の皆さん

## 駅前をイルミネーションで明るく！



今年度も有志による実行委員会が、駅前のイルミネーション設置に取り組みました。今回は、ライトを覆う手のひらサイズの透明箱型カバーに、自由に絵やメッセージを描くワークショップなども各所で開催。町内の体操や趣味のサークル、放課後子どもクラブの児童や道の駅なみえ来館者など幅広くご参加いただきました。様々な作品が駅前を明るくするとともに、

見に来た人の心も温かくしました。

12月16日に点灯式をおこなった際には「防犯まちあるき」も実施。参加者はライトを手に夜間危ない箇所などを確認したり営業中のお店に防犯の声かけしてまわるなど、住民自治活動に取り組みました。



▲合わせて150個近い色とりどりのカバーが完成

## 防災に向けた取り組み

幾世橋住宅団地では、防災について取り組んでいます。

### ①らいふく自治会 消火訓練

乾燥の冬が近づく令和3年10月、コロナの感染状況が落ち着いている時期に、浪江消防署の協力のもと、屋外でかつ短時間で行える消火訓練を計画。事前に班長が消防署と打合せを行い、チラシなどで住民に呼びかけをし、当日は約20名の住民が訓練に参加しました。消防署からの総評で「皆さん思いのほか手順がしっかりできていて驚きました！」とお褒めの言葉をいただきました。

同じ団地でもコロナ禍で久しぶりに顔を合わせた方も多く、自治会長から「晴れている日に外で集まるのはいいね。早くマスクを取って会いたいね」と感想がありました。

### ②防災の集い

役場防災安全係とまちづくりなみえで協力し、防災の集いを開催。班ごとに交流ができるよう、全5回実施しました。メインはハザードマップの確認です。『避難』『情報発信』『共助』について様々な意見や質問がでました。当日は参加者が少なかったものの、皆さんそれぞれの事情に合わせた質問や返答があり、「こんな時、自分はどう逃げる？」がより現実的にイメージできたのではないのでしょうか。



▲全員が水消火器を体験



▲改訂版ハザードマップをしっかりと確認しました

# 町民の皆さんのお宅を訪問しています

当事業では地域づくり支援専門員が、町内に居住を開始された町民の皆さんを訪問し、日々の生活面や近隣コミュニティについて、地域の行事や歴史、そして現在の地域課題など様々なご意見をお聴きしています。

訪問活動は、当事業がスタートした平成30年より継続しております。コロナの影響で訪問活動を控える時期も多々ありますが、現在まで1,200件以上訪問し、そのうちお会いできた方が500名近くいらっしゃいます（1月現在）。主に玄関先でお話を伺いますが、時には屋内にお招きいただき、時間をかけて多くのご意見をいただくこともあります。昨年度までの傾向では、帰還された方はもちろん、仕事の転勤等で居住された方も多い印象でしたが、加えて今年度は「県外より自ら浪江町を選んで移住した」という方も増えており、様々な視点からコミュニティ形成への可能性が広がるのではと感じています。



## こんな声がありました

近隣はまだ帰っている人は少ないですね。近所付き合いはまだないです。集まりがあれば参加しようと思っています。



男性

町を定期的に巡回しているバスがあるといい。病院や薬局に行く場合、町外のどこがいいのかわからないので情報を知りたい。



女性

イオンさんはあるけど買い物はもう少し店が増えるといいな。数店舗だけでも日曜の夜に営業している飲食店があると嬉しい。



男性

移住してきました。人の雰囲気がいいですね。近所の方とはすれ違ったら挨拶します。不安心配は街灯が少なく、暗いことかな。



女性

お話の中からヒントをもらい、実際に地域活動計画に取り入れたい、関係各所へつなぐことができたりと、町民の皆さんの声が地域づくりのベースになっています。

## これからの活動について

5年目に入る次年度以降は、引き続き

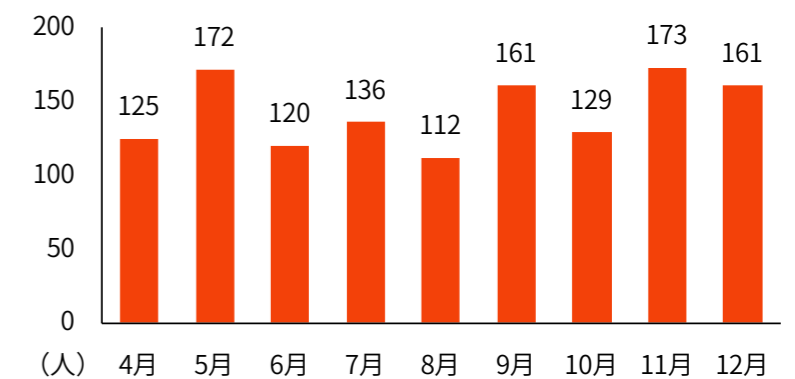
- ・環境美化をきっかけとした交流の場づくり
- ・防災をテーマとしたコミュニティづくり（自主防災組織の推進）
- ・地域を学び親しめる機会の創出

新たに

- ・移住者と交流できる場づくり
- …など、様々なアイデアで町内コミュニティの再生・再構築へ向けたお手伝いをしていきます。

また、この秋に準備宿泊が開始される帰還困難区域の特定復興再生拠点での支援活動にも取り組んでいきます。

## 令和3年度地域活動実施支援 参加者数



▲毎月延べ100人以上の町民の皆さんと関わりながら、様々な地域活動に取り組んでいます。

# 町の動きを紹介します！

続報

## 請戸住宅団地 自治会準備会

前々号からお伝えしている“新たなつながりづくり”の進捗です。

令和3年7月末『自治会設立準備会』が発足して約半年。会議を重ね、この団地に合う自治会を考えてきました。10月には住民へ進捗の共有をするため2回目の意見交換会も開催されました。規約案や初年度活動案の検討が終わり、いよいよ設立総会開催の準備に入っています。

※設立総会は、書面ではなくできれば顔を合わせて実施したいとの考えから、コロナ状況で時期見合わせ中です（2月現在）。



## 津島地区 行政区区長会

全域が帰還困難区域となっている津島地区ですが、二本松市で数ヶ月に一度、津島の行政区長会が開かれています。

8行政区の区長が集まり、除染の進捗状況を情報共有したり、町や県・国への要望を話し合ったりとまとめたりなどしています（写真は地図を広げ議論する区長）。昨年10月末には国の担当者を招いて意見交換をおこないました。思うように復興が進まず葛藤を抱えながらも、地域への思いを胸に活動を続けています。



## 防災コミュニティセンター3カ所 まもなく開設

浪江町では、防災コミュニティセンターの整備が進められています。昨年4月に開設した大堀防災コミュニティセンターに続き、今年4月には、浪江中学校跡地、幾世橋小学校跡地、荊野小学校跡地に、それぞれ防災コミュニティセンターが開設する予定です。

これらの施設は、住民の防災意識の醸成、防災活動の推進を図るとともに、住民の連携によるコミュニティの創造を図る目的で整備されます。災害が起きた際の避難所としてだけでなく、集会所として集まりなどに利用することもできます。ぜひ皆さんご活用ください（写真は浪江防災コミュニティセンター）。



なみえのいま 第8号（令和4年3月） 発行・編集 一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業  
〒979-1521 浪江町権現堂字塚越2-10 Tel：0240-23-7530 Fax：0240-23-7531 HP：http://www.mdnamie.jp/

当事業の活動広報誌「なみえのいま」は年度内2回（10月と3月）発行しています。  
バックナンバーはホームページに掲載しており、QRコードを読み取ることでアクセスできます。  
また、道の駅なみえ等にも配置しています。



QRコードは  
こちら



第1号  
H30.11発行



第2号  
H31.3発行



第3号  
R1.10発行



第4号  
R2.3発行



第5号  
R2.10発行



第6号  
R3.3発行



第7号  
R3.10発行